

# 東北地方在住の日本語非母語話者を対象とした 方言理解支援ツールの評価

斎藤 敬太

## 1. はじめに

少子高齢化などから、看護や福祉の分野も含めた就労などのために日本でくらす日本語非母語話者（以下「非母語話者」）が年々増加している。標準語を学習していれば日本国内での生活は問題なく可能だと思われがちであるが、年代を問わず方言話者が比較的多く存在するような地域では、話す分には標準語で通じて、地元住民が必ずしも標準語で話すとは限らず、方言で話された際に理解できず、これがコミュニケーションにおいて問題になるということもある。そこには、方言の持つ独特な語彙・音声・文法などの様々な要因が存在する（斎藤 2015）が、このような問題が考えられる地域の一つとして、東北地方が挙げられる。2011 年の東日本大震災後に在留外国人数が減少したもののその後再び増加し、2016 年 6 月以降は震災前の人数を上回った。筆者は東北地方の日本語母語話者と非母語話者の双方への調査をもとに、彼らが日常生活の中で聞く可能性の高い方言について明らかにし、必要最低限の方言理解の一助となることを目指した方言理解支援ツールの小冊子『東北地方の外国人住民のための「くらしの方言集」』（図 1、以下「方言集」）を作成（斎藤 2017）、東北地方各地の国際交流協会に無償配布した。本稿では、方言集を使用した非母語話者と地域日本語教室のボランティア教師（以下「日本語支援者」）の双方から得たフィードバックについて取り上げる。



図1.『東北地方の外国人住民のための「くらしの方言集」』

## 2. 方言集の概要

方言集では、東北地方での日常生活において耳にすると考えられる118の方言項目を見出し語として採用した。方言集の対象地域は東北地方の6県(青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県)全てである。東北方言を14の方言に区分し、その分布を方言集内で示している(14区分の詳細は斎藤2020を参照)。見出し語の選定に当たっては、東北地方の日本語母語話者(東北出身の他地方在住者と東北在住の他地方出身者を含む)が現在どのような方言項目を使うあるいは聞くかを、筆者が予め用意した方言リストを用いて明らかにした「方言使用調査」(斎藤2018)、そして「方言使用調査」で日本語母語話者が使うあるいは聞くとした方言項目を含む短い会話を録音し、それを東北地方の非母語話者に聞かせ、どの程度理解できるか、あるいは知らなくても推測できるかを明らかにした「方言理解調査」(斎藤2019)、この二つの調査の結果をもとにした。方言集には平易な表現を用いた標準語以外に英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・インドネシア語による訳も加えた。これらの言語については、調査当時の東北地方に多く暮らす外国籍の者の出身国で主に用いられるもの(英語、中国語、韓国語)、日本全国の在留外国人の国籍の上位であるため、今後の国内での移動を考慮したもの(ポルトガル語)、EPA(経済連携協定)によって来日する看護師・介護福祉士などの候補者、および試験合格者のさらなる増加を考慮したもの(インドネシア語)などから採用した。また、フルカラーによるイラストや方言の分布図を掲載したり、

例文の音声収録したCDを付属したりするなど視聴覚的にも理解しやすいよう配慮した(図2)。

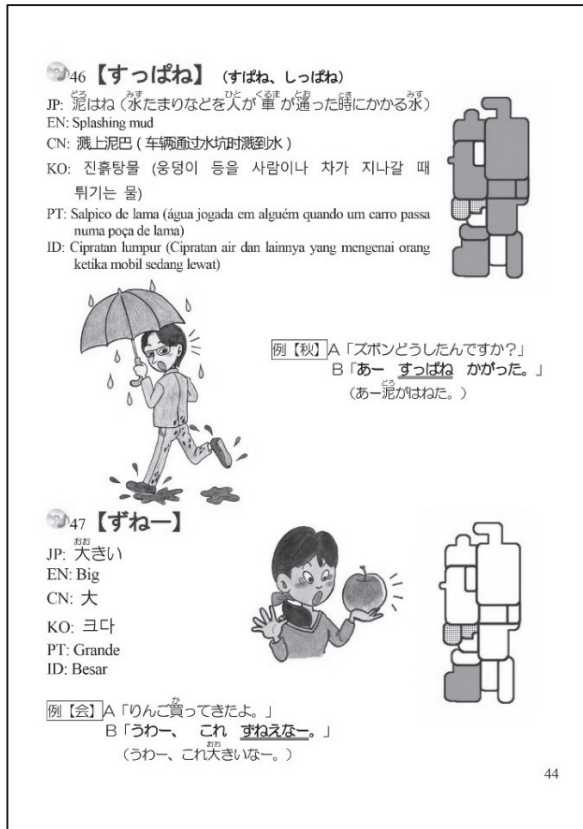


図2. 方言集の一部ページ

### 3. 方言集の設置・配布

作成した方言集を非母語話者や日本語支援者の手に届けるためには、彼らの生活圏に方言集が入手できる場所がないと難しい。そこで、まずは方言理解調査で協力を得た(公財)秋田県国際交流協会、金ヶ崎町国際交流協会(岩手県)、そして会津若松市国際交流協会(福島県)での設置・配布を行った。また、各地で実施した方言理解調査のインフォーマント及び方言集に収録し

た方言音声の録音協力者にも筆者から送付、あるいは各国際交流協会を通じて配付した。

その後、以前筆者が訪問し本研究について説明した（公財）山形県国際交流協会にも設置・配布を依頼し、許可を得た。

後日、金ケ崎町国際交流協会に配布した方言集を入手した奥州市国際交流協会（岩手県）の日本語支援者から問い合わせがあり、その結果、同協会にも設置・配布することになった。さらに、（公財）山形県国際交流協会に配布した方言集を入手した（公財）青森県国際交流協会の職員からも「ぜひ欲しい」との連絡を受け、設置・配布した。

また、（公財）岩手県国際交流協会及び（公財）仙台観光国際協会 仙台国際センター 交流コーナー（現・（公財）仙台観光国際協会 仙台多文化共生センター）（宮城県）からも許可を得たため、設置・配布に至った。最終的に東北6県、8機関で方言集を設置・配布することができた（表1）。

なお、方言集のウェブサイト（<http://saitokeita.web.fc2.com/hougenshu/>）からは方言集のPDF版や、冊子版には収録できなかった「例文の多言語訳」を閲覧することができる。

表 1. 方言集配布機関一覧

青森県	・公益財団法人 青森県国際交流協会
岩手県	・公益財団法人 岩手県国際交流協会 ・奥州市国際交流協会 ・金ケ崎町国際交流協会
宮城県	・公益財団法人 仙台観光国際協会 仙台多文化共生センター
秋田県	・公益財団法人 秋田県国際交流協会
山形県	・公益財団法人 山形県国際交流協会
福島県	・会津若松市国際交流協会

#### 4. 方言集の評価

方言集を実際に手に取った非母語話者や日本語支援者などは、使ってどのように感じたのだろうか。彼らが実際に使用した際の評価について記す。

配布機関に寄せられた非母語話者や日本語支援者の意見を、担当者から

メールで得た。方言集に対して肯定的なものや否定的なもののみならず、今後の改善につながる具体的な提案まで、実に様々な意見がみられた。

#### 4.1 日本語支援者の評価

まず、日本語支援者から得た意見を記す。ただし、各機関の職員や、日本語支援者ではない地域住民のものも一部含まれている。

- ・ 大変好評で、日本語教師や支援者から「ぜひ欲しい!」という声がたくさんあった
- ・ 外国の方は方言のあたたかさを好む方が多い、この本を欲しい方はたくさんいるはず
- ・ 日本語を教えている外国人も喜ぶと思う
- ・ 学習中に方言について聞かれたときに利用できるのも良い
- ・ 実践的な入門本として、現地でも立派に通用すると思う
- ・ 小さな自治体で、ALTや外国人の配偶者が来た場合のプレゼントとして、配布するといいいのでは
- ・ 県内の大学の職員が来所された際に数部差し上げたところ、事務局担当課内で回覧され、とても評判がよかったと聞いた
- ・ きれいによくまとまっている
- ・ 販売はしていないのかとの意見もあった

上記のような肯定的な評価を得た。また、以下のような方言集に対する具体的な意見や提案も多く確認された。

##### ○方言集のサイズ・材質について

- ・ サイズや紙の厚さ、表紙の紙質などが使いやすい(何度も繰り返しめくることが想定されるのである程度の厚さがあるこの紙質は使いやすい)

##### ○フォントについて

- ・ 外国語訳はもう少し小さいフォントでいいような気がする
- ・ またJP/CNなどの表記(外国語訳の前に記す言語名)もなくともいいのではないかと思う
- ・ 字の間隔、フォントが大きすぎる

## ○方言項目について

- ・ 内容は正確だ
- ・ 語彙のボリュームは、現地で特徴的かつ、普通でも使うような言葉はかなり網羅していると思われる
- ・ 各方言が使われる地域は、もう少し精査が必要かも（例えば、63番「なんも」は、盛岡のあたりは色が抜かれているが、口癖のように言ってる人が周囲にけっこういる）
- ・ 助詞（～だべ、～でがす）なども載せたほうがいい→～だべが（～だろうか）、～でがした（～でした）などの活用も
- ・ 現在使用していない単語は不要
- ・ 地元人でも聞いたことのない言葉がある
- ・ 方言となまりは別、方言だけ入っていて不自然
- ・ 方言は、なまりもあるし、家庭によっても使う使わないがある

## ○分布図について

- ・ 方言が使われている地域の色分け表示がわかりやすい、見てすぐにわかる
- ・ 通用している地方も、感覚的にわかりやすい
- ・ 現地に住んでいる外国人にとっては、地理的な位置感覚がつかみやすいのではないか
- ・ 各方言についての地図の色と形状が、臓器をイメージしてしまうので別な色のほうがいいのか

## ○例文について

- ・ よく聞く方言で、息子が初めて話した方言「～っけ」について、「～っけ（よ）。」で例文を載せた方が、実用的かなと思う
- ・ 一文だけではわかりにくい、何かひとつの場面を想定して自然な会話のやり取りを記入してはどうか

## ○イラストについて

- ・ イラストが多数使われているのが見やすくてよい
- ・ 語彙ごとのイラストがよく状況を表していて、視覚的にもわかりやすいの  
がいい
- ・ イラストに登場する人物も、親しみやすい
- ・ イラストを担当された方もよく言葉の持つ意味を理解した上での作業だと

感心した

- ・ イラストがないページもあるので、もっとイラストがあったほうがいい

#### ○CDについて

- ・ こういったものは発音が重要なのでCDが添付されているのはとてもいい
- ・ CD、会話例がついているので、イントネーションなどがよくわかった
- ・ 音声CDは、スピーカーが東北弁ネイティブなので生々しく、いい
- ・ 音声で聞くネイティブの発音には、東北人の私でもびっくりだった
- ・ 音声CDに男性の声だけだと何か重いので、それに女性が入るといいアクセントになる

#### ○ウェブサイトについて

- ・ web版でも音声を確認できたらいいと思う

また、

- ・ できたら、その地方ごとに方言を分けて記載してあると読みやすいと思う
- ・ もっとエリアを細かくして、言葉の数を増やしたエリアごとの方言集にしないと、実際の活用には適さないと思う
- ・ 地域ごとに分かれた冊子にしてはどうか、会津で他の地方の方言は使わない

といった、「地域ごとに分けてほしい」という意見が各地で見られた。方言集は「東北地方の非母語話者の必要最低限の方言理解の一助」というコンセプトと、方言項目の多くが複数の地域に跨って使用されているという事実から、地域ごとに分けて記さずに、分布図を添えることで東北地方全体での分布が見られるということを特長とした。しかし、やはり各地の住民からすれば他地域の方言項目は「使わない」「聞かない」方言であるため、不要な箇所となりやすい。今後、PDF版にて実験的に地域ごとに分けたバージョンの方言集の製作を検討したい。

さらに、

- ・ うしろに索引があると便利だと思う

- ・費用や労力の問題で難しいかと思うが、アプリがあればスマホでも使いやすいのかなと思う

という意見も見られた。やはりこれらに関しても今後検討したい事項である。

その一方で、非母語話者を対象とした本方言集について否定的な評価も得た。

- ・まだ日本語がうまくできない学習者にとっては混乱させる内容である
- ・外国人の暮らしに役立つものとは思えない
- ・日本語教室は基本的に方言に重点は置かず、標準語で授業を進めている
- ・間違った言葉は教えない、というものを持ちながら授業を進めており、この冊子に関しては気になる点がいろいろある

上記の意見に見られるのは標準語を重要視している点であるが、このような意見が存在するという事実は受け止めなければならない。筆者としてはこれまで非母語話者に対する方言理解の有用性を示してきているが、方言集は地域日本語教育の在り方の一つの選択肢であり、最終的な利用は当事者に委ねられている。

## 4. 2 非母語話者の評価

次に、非母語話者から得た意見を紹介する。

- ・とてもいい、素晴らしい
- ・面白い
- ・書店で売っているなら買いたいと思う
- ・青森に住む外国人には役立つ
- ・地図がわかりやすい
- ・なかなか他の多言語表記の中にインドネシア語があることはないのうれしい
- ・(インドネシア人学習者より)全頁読んだわけではないが、訳に少しニュアンスが違う部分があると思った(例として「めんこい」の訳は英語でいうと funny に近い感じ、ここでは英語で cute とあるので少し違和感)
- ・ベトナム語の説明がほしい
- ・本のサイズが小さい

- ・ どこ地方の方言かもっとはっきり表わした方が良い
- ・ 自分の地域で使わない(聞いたことがない)方言があり、わからない
- ・ 今は使わないから覚えられない
- ・ 標準語を覚えたいので必要ない

「役に立つ」というものから「標準語を覚えたいので必要ない」というものまで、様々な評価が確認できる。また、日本語支援者の意見と同様に地域をもっとはっきり示してほしいというものや、自分の地域で聞いたことがないものはわからないというものが見られる。やはり、非母語話者の視点から見ても地域ごとに分けたバージョンを検討する必要があるということになる。

「ベトナム語の説明がほしい」という意見に関しては、筆者としても作成すべきであると考えている。筆者は前述の通り今後の外国人看護師・介護福祉士の増加を念頭に置いてインドネシア語を採用した。しかし、ベトナムは近年全国的に在留者数が急増し、これまで長年中国・韓国に次いで在留者数が多かったフィリピンやブラジルを抜いて3位となっている。その多くは留学生や数年で帰国する技能実習生であるものの、2014年からインドネシアと同様にEPAによる看護師・介護福祉士候補者の受け入れを開始しているということや、2019年より受け入れが開始された在留資格「特定技能」などを考慮すると、ベトナム語も採用すべきであると考えている。

## 5. おわりに

以上、非母語話者向け方言理解支援ツール『東北地方の外国人住民のための「くらしの方言集」』の評価について記した。東北地方の中でも方言に対する意識・認識には様々あると考えられ、方言集に対する非母語話者・日本語支援者双方の評価もまた様々であった。非母語話者の日本語学習に対するニーズや日本語支援者の方針は多様であり、それぞれにあった学習活動が望まれる。微力ながら方言集もそのような地域日本語教育における選択肢の一つとして、東北地方の方言理解について問題を抱えている非母語話者やその支援者のもとで活用されればと願うとともに、今後より良い方言理解支援ツールを提供していきたいと考える。

## 謝辞

本研究は、公益財団法人日本科学協会の平成 28 年度笹川科学研究助成による助成を受けたものである。また、方言集の設置・配布に協力していただいた公益財団法人青森県国際交流協会、公益財団法人岩手県国際交流協会、奥州市国際交流協会、金ケ崎町国際交流協会、公益財団法人仙台観光国際協会（仙台多文化共生センター）、公益財団法人秋田県国際交流協会、公益財団法人山形県国際交流協会、会津若松市国際交流協会の皆様にお礼申し上げます。

## 参考文献

- 斎藤敬太 (2015) 「東北地方の外国人住民向け方言教材の開発」『2015 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp.261-268
- 斎藤敬太 (2017) 『東北方言の外国人住民のための「くらしの方言集」』平成 28 年度笹川科学研究助成により印刷
- 斎藤敬太 (2018) 「『東北地方の外国人住民のための「くらしの方言集」』作成に向けた語彙・文法項目の使用実態調査」『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』8 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要編集委員会 pp.129-139
- 斎藤敬太 (2019) 「東北地方在住の日本語非母語話者を対象とした方言集作成に向けた方言理解調査」『日本方言研究会 第 109 回 研究発表会 発表原稿集』pp.25-32
- 斎藤敬太 (2020) 「東北地方の外国人住民を対象とした方言理解支援ツールにおける翻訳上の問題点—東北諸方言と英語の対照研究—」『津田塾大学紀要』52 pp.205-238